

はじめに

本書は、平成 26 (2014) 年度～平成 30 (2018) 年度科学研究費補助金基盤研究(A)「日本語の時空間変異対照研究のための『全国方言文法辞典』の作成と方法論の構築」(課題番号：26244024・研究代表者：日高水穂)の研究成果報告書である。以下に本研究の概要を示す。

目的と経緯

本研究は、日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の編纂を目的として、要地方言を統一的に調査するための共通調査項目を策定し、各地方言(標準語を含む)の文法的側面に関する対照研究を行うものである。

すでに、平成 21 (2009) 年度～平成 25 (2013) 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の作成とウェブ版の構築」(課題番号：21320089・研究代表者：日高水穂)の研究成果報告書として、2014 年 3 月に『全国方言文法辞典資料集(2)活用体系』を刊行しているが、本書はこれに引き続き、要地方言の活用体系の記述を行うものである。前書では 12 地点(本土方言 10 地点、琉球方言 2 地点)、本書では 14 地点(本土方言 13 地点、琉球方言 1 地点)の記述を完成させた。目標とするのは、本土方言では 46 都道府県から 1 地点ずつの 46 地点、琉球方言では 6 地点程度の記述を整え、全国方言の活用体系を俯瞰できるようにすることである。

本書では、前書で示した活用体系の記述枠に改訂を施し、より平明で整合的な記述方針に従って、新たな要地方言の活用体系の記述を行った。新たな記述方針は、小西による「この報告書における記述の枠組み」に示している。本書の要地方言の記述は、本研究の母体である方言文法研究会のメンバーに加えて、新井小枝子氏、小島裕将氏、佐々木冠氏、澤村美幸氏、松田美香氏に、各氏のフィールドとする要地方言の記述を依頼した。各執筆担当者の原稿を一貫した記述方針のもとに整える作業は小西が行い、本書の全般的な編集作業は小西と日高が行った。

本研究の母体である方言文法研究会は、2001 年に以下の方針のもとに活動を開始した。

- ・方言の文法に関する記述をより精密なものにする。
- ・全国方言の文法形式、文法現象をできる限り網羅する。
- ・言語の対照研究に興味を持つ人全般に向けて情報発信する。

本研究会の最終目標は、上にも述べたように、『全国方言文法辞典』を成すことである。本研究会のこれまでの研究成果は、以下のウェブページにおいて公開している。

<http://hougen.sakura.ne.jp/>

最終的な『全国方言文法辞典』を成すためには、より広く諸方言の情報を収集していく必要がある。今後とも多くのご教示をいただきながら、本研究を進めていきたい。

研究組織

*本書の「要地方言の活用体系記述」執筆担当者

- 研究代表者： 日高 水穂（関西大学 文学部・教授）
- 研究分担者： 青木 博史（九州大学大学院 人文科学研究院・准教授）
- *小西いずみ（広島大学大学院 教育学研究科・准教授）
 - 小柳 智一（聖心女子大学 文学部・教授）
 - *下地賀代子（沖縄国際大学 総合文化学部・准教授）
 - 高木 千恵（大阪大学大学院 文学研究科・准教授）
 - 中本 謙（琉球大学 教育学部・教授）
 - 林 良雄（秋田大学 教育文化学部・教授）
 - *平塚 雄亮（志学館大学 人間関係学部・講師）
 - 船木 礼子（神戸女子大学 文学部・准教授）
 - 前田 直子（学習院大学 文学部・教授）
 - *松丸 真大（滋賀大学 教育学部・准教授）
 - *三井はるみ（国立国語研究所 言語変異研究領域・助教）
 - *森 勇太（関西大学 文学部・准教授）
 - 矢島 正浩（愛知教育大学 教育学部・教授）
 - *山田 敏弘（岐阜大学 教育学部・教授）
- 連携研究者 仲原 穰（琉球大学 大学教育センター・非常勤講師）
- 研究協力者： *新井小枝子（群馬県立女子大学 文学部・准教授）
- *小島 裕将（広島大学大学院生）
 - *酒井 雅史（関西大学 文学部・非常勤講師）
 - *佐々木 冠（札幌学院大学 経営学部・教授）
 - *澤村 美幸（和歌山大学 教育学部・准教授）
 - *竹田 晃子（フェリス学院大学 文学部・非常勤講師）
 - *野間 純平（島根大学 法文学部・講師）
 - *松田 美香（別府大学 文学部・教授）
 - 吉田 雅子（実践女子大学 文学部・非常勤講師）

交付決定額（配分額）

- 平成 26(2014)年度 9,490 千円（直接経費：7,300 千円、間接経費：2,190 千円）
- 平成 27(2015)年度 7,280 千円（直接経費：5,600 千円、間接経費：1,680 千円）
- 平成 28(2016)年度 7,800 千円（直接経費：6,000 千円、間接経費：1,800 千円）

2017年1月

日高 水穂